

応用理学部会第1回研修会報告

応用理学部会では、部会員をはじめ多くの会員、その他の方々に参加していただき、研修と懇親を深めてもらえるよう年間2回の研修会を計画しております。平成15年11月20日に、防災研究会と共催してその第1回研修会を開催し、33名の方の参加をいただき活発な質疑応答があり、盛会の内に終了したことをお知らせいたします。

応用理学部会では、2回の研修会を部会活動の大きなテーマである防災と環境に分けて開催する予定で、第1回は防災をメインテーマとして部会の幹事の方に発表講演をお願いし、会場も部会員の会社の施設をお借りして開きました。

研修会の内容は次の通りでした。

1. 日時 平成15年11月20日(木) 15時～17時30分
2. 場所 (株)復建技術コンサルタント 5F会議室
3. 内容 地震防災の最近の話題と技術士の役割
 - ・ ①三陸南地震(平成15年5月)の大船渡市付近の地震被害報告
新沼正彦(株)菊池技研コンサルタント)
 - ・ ②斜面災害と地域防災について(石巻市付近を例にして)
中里俊行(ジオテクノ中里技術士事務所)
 - ・ ③地震防災と技術士の役割
守屋資郎(株)復建技術コンサルタント)
 - ・ ④討論
コーディネーター 押見和義(株)復建技術コンサルタント)

以下研修会の報告をいたします。

本会では、3編の発表が行われた。

新沼会員は、大船渡市における地震災害(5/26)について、極めて緻密な調査観察の結果を空撮をまじえて報告された。地元であるが故に、かつての地震とも比較しながら、今回の被害の特徴や被害分布の偏在性にも触れ、斜面崩壊機構についても、専門家としての洞察を紹介された。

中里会員は、石巻市における地震被害(5/26)の状況と地域での支援活動について、専門技術者の視点から、行政と技術者の役割に言及された。前者については、2箇所(斜面災害)を例に、斜面崩壊と地震動との関係を説明され、あらためて地形地質の的確な判断が極めて重要なことを述べられた。後者については、実際の地域活動を通じて技術者の役割が何で、どのように行動すべきかを教唆された。

守屋会員は、今回の地震(7/26)後に、実施した地元説明会に参加したことから、住民が何を望んでいるのか、それに対して、技術者はどう応えることができるのかということの説明であった。行政、研究者、技術者が連携することが重要であるとの指摘は、多くの機会にいわれていたが、住民サイドからの要望は何かを、説明会を重ねることで見えてきた。結論的には、われわれは、行政や研究者、住民との間を埋める役割が求められているのではないということから提言と今後、実践すべき活動への提案があった。

検討会では、上記3発表に関する質問という形で進行され、まず今野代表幹事から、地盤災害に関する部会内のワーキンググループの現在の状況の報告があった。

その後、発表についての関連質問があつて、発表者が中心に答えた。主な要旨は以下のようである。

(新沼会員関連)

Q1 多用されていた空撮について、どのような方法で実施されたのか?

A1 全て、自社所有の産業用ヘリによるものである。短時間に的確な情報収集に効果的である。

Q2 大船渡市で見られた、家屋被害の偏在性について、地形を反映した地震動の増幅のようなものの可能性はないか。

A2 それを証明するデータはいまのところない。

他に、大船渡の埠頭で観察された液状化現象（粗砂や礫分が地表面に噴出し、細粒分は流下した）について、粗砂や礫分が液状化したのではなく、あくまでも細粒分が液状化して、コンクリート直下にあった粗粒分が噴出したのであろう という意見が出された。

（中里会員関連）

1. 鹿妻山急傾斜崩壊区域に関して、崩壊機構で追加説明があった。
2. 八幡山に関して、施工的には、千鳥施工や脚部先進施工などの話題になった。発表者としては、地質性状の把握がいかに重要であるかということが示唆された。

（守屋会員関連）

各学会や協会活動との連携をよくすることが重要であろうとの意見があった。基本的には科学技術者という視点で、一元化することが望ましいであろうが、実際には不可能であろうという発表者の意見があった。我々としては、技術士の知名度アップのために、日常的な情宣に努め、身近なところから一人一人が技術士活動する（例えば、町内会とかの地域活動）のが急がば回れではないかという考えを示した。

以上が研修会の報告です。この中で、地震防災に関するワーキンググループは会員をさらに部会員などから募集し現在は部会幹事 8 名と合わせ、16 名になりました。このメンバーで、“地域と住民のための地盤防災”を合言葉に活動していく予定です。

なお、2月20日には環境をテーマとした第2回研修会を計画しております。この研修会についてはまたご報告いたします。

以上
（応用理学部会 守屋，今野記）



研修状況